

特別陳列 初代徳田八十吉とその時代Ⅱ

初代徳田八十吉《古九谷写意菓子鉢》小松市立博物館蔵
—「初代徳田八十吉とその時代Ⅱ」より—

■ 石川県の文化財【古美術】

■ 溶姫と婚礼調度【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 12月の企画展示室
- 企画展Topics よみがえった文化財—保存活用を支える修復技術—
- 学芸室の人々
- デジタルミュージアム紹介
- 12月の行事予定

近現代工芸(第5展示室)

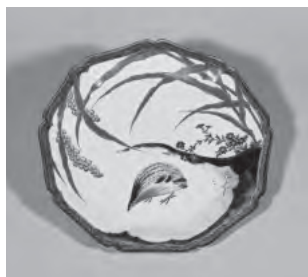
特別陳列 生誕150年

初代徳田八十吉とその時代Ⅱ

12月1日(金)~12月24日(日) 会期中無休

学芸員の眼

初代徳田八十吉は、明治期に陶画と日本画を学んでいます。陶画は初代松本佐平に、日本画は明治21年(1888)に能美郡に図案講師として招かれた荒木探令(後の狩野探令)と明治38年(1905)に小松遊歴中の山本永暉に学びます。八十吉の日本画は、展示中の《山水図十二ヶ月》にみられるように、確かな筆致やモチーフの配置、構成など、かなりの実力を持っていたことがわかります。翻つて、陶画についてみると、例えば《色絵粟に鶉図鉢》(KAM能美市九谷焼美術館一五彩館一蔵)は、粟や鶉の描写、モチーフの配置もさることながら、余白の使い方が見事な作品となっています。この技術は日本画学習に裏付けられたものであるといえるでしょう。



初代徳田八十吉《色絵粟に鶉図鉢》
KAM能美市九谷焼美術館 | 五彩館 | 蔵

ただいま展示中の、初代松本佐平・初代徳田八十吉の共作《九谷焼歴代画風図花瓶》(KAM能美市九谷焼美術館一五彩館一蔵)は、大正4年(1915)におこなわれた大正天皇即位の大典奉祝献上品の控え作品です。鉄釉が欠けられた器面には、9つの扇面があります。それぞれの扇面に、明暦・万治年間(1655-1658、1658-1661)から現代、つまり制作された大正4年までにみられる九谷焼の絵付の特徴が描写されています。

「昇竜ノ圖」吉田屋傳右衛門畫風(文化年間)、「柏ノ圖」本多貞吉畫風(文化年間)、「丹鳳ノ圖」飯田屋八郎右衛門(文化年間)、「水邊蘆二鶴ノ圖」赤繪勇次郎畫風(文化年間)、「朝天鶏鳴ノ圖」九谷庄三畫風(天保年間・1831-1845年)、「龜ノ圖」永樂善五郎畫風(慶應年間、1865-1868)、「櫻橘ノ圖」(現代・1915年)の9つです。現代については、佐平と八十吉が、当時の流行や技術を駆使して考えたデザインだと考えられます。これらの絵付には歴代九谷焼を紹介するということだけでなく、大典を奉祝する意味が込められています。

展示では、本作を底面と内側を除く全方向から鑑賞できるようになっています。みなさんのお気に入りの画風を探してみたいかがでしょうか。



初代松本佐平、初代徳田八十吉
《九谷焼歴代画風図花瓶》背面



初代松本佐平、初代徳田八十吉
《九谷焼歴代画風図花瓶》正面
KAM能美市九谷焼美術館 | 五彩館 | 蔵

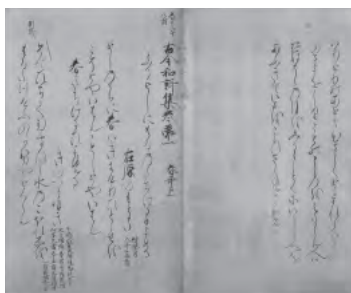
石川県の文化財

12月1日(金)～12月24日(日) 会期中無休

学芸員の眼

ここでは《古今和歌集 清輔本》に注目します。「古今和歌集」は最初の勅撰和歌集で、紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠岑によって撰集されました。千首を超える和歌が収録され、その作者も百人以上を数えます。そんな彼らのほとんどは、社会の運営に携わった王朝律令官人であり、仕事の合間に和歌を詠んでいました。

本展では、季節に合わせて「古今和歌集巻第六 冬歌」を展示しています。源宗于朝臣の「山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬとおもへば」は百人一首にも収録されており、聞き覚えのある方も多いのではないのでしょうか。たった31文字ですが、現代のわたしたちにも豊かなイメージをもたらしてくれます。ぜひ和歌の余韻も味わってみてください。



重要文化財《古今和歌集 清輔本》(部分)

コレクション展「石川県の文化財」では、重要文化財や石川県指定文化財を含む県内の貴重な文化財を一堂にご覧いただけます。例年11月1日～7日の「文化財保護強調週間」に合わせて開催し秋の恒例となっていました。今秋の企画展「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展―皇室と石川―」と、年明けから開催予定の企画展「よみがえった文化財―保存活用を支える修復技術―」をつなぐ架け橋となるべく12月の開催となりました。

今回は、大乘寺に伝わる《佛果碧巖破関撃節》などの重要文化財5点をはじめとし、重要文化財《古今和歌集 清輔本》や石川県指定文化財《源氏物語図》伝岩佐又兵衛など、雅な雰囲気を感じさせる作品も展

示しています。

本展に出品する作品に限らず数多くの文化財は、多くの先人たちによってここまで受け継がれてきました。彼らを守り受け継いでくれたからこそ、現在のわたしたちが実際に見ることができています。美術館という「展示」という役割ばかりがクローズアップされがちですが、作品の劣化をなるべく遅らせ、後世に残しつないでいく「保存」の役割も大変重要です。

本展では、石川県内に伝わる貴重な作品の数々をご覧いただき、県内の文化財を広く知っていただくとともに、美術館の役割の一つである「保存」についても思いを巡らせていただければと思います。



石川県指定文化財《源氏物語図》(左隻) 伝岩佐又兵衛

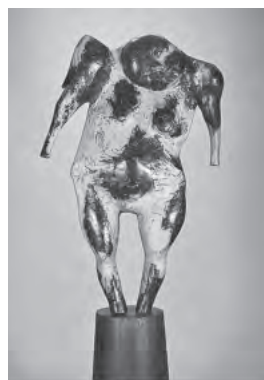
優品選

12月1日(金)～12月24日(日) 会期中無休

長く続いた夏からあつという間に秋が過ぎ、季節は師走。日本画分野から季節の優品として、石川義《冬の水路》を紹介しします。石川は日本の原風景を描いた画家ですが、昭和30年代に日本を席巻した抽象表現の影響から、制作に行き詰まります。しかし本作は、そのピュリスティックな表現が冬の風景という主題にマッチし、冬の冷気までも表現することに成功しています。

油彩画分野から紹介するのは、自然賛美の風景画を描く森本仁平の《湖畔のはす田》です。「日常的な視野の中で、事実に即した実感としての詩情を大切にしたい」と語る森本の作品は、丹念に描写がなされ、広大な大気が広がります。見る者に静けさと懐かしさ、そして暖かい心情を誘う作品をお楽しみ下さい。

彫刻分野からは、梶本良衛《ワ・タ・シ今ナニヲ》をご紹介します。作者は一貫して自身(ワタシ)の心境や状況を作品として表現しています。腰を僅かに曲げ、細い足で立つ人物像。表面には漆を塗り磨き、木と漆の質感が対比されます。本作において作者は「もう一度、これから立ち上がる」という気持ちを表したと語っています。彫刻家の作品から高田博厚の《空》と題した裸女立像の版画作品も紹介します。版画の伝統が長い欧州に27年滞在をしてきた高田は、「画家・彫刻家が常に勉強しなければならぬのは素描と版画」という言葉を残しています。また、「素描の勉強は自分の脚が常に大地についているかどうかの試験」と捉え、毎日素描に取り組んでいました。



梶本良衛《ワ・タ・シ今ナニヲ》

ようひめ 溶姫と婚礼調度

12月1日(金)～12月24日(日) 会期中無休

溶姫は11代將軍 徳川家斉の二十一女で、加賀藩13代藩主・前田斉泰の正妻として知られています。本展では、溶姫が持参した婚礼調度を中心にご紹介いたします。

徳川家関係から前田家の歴代藩主への輿入りは多く、3代利常が2代將軍秀忠の二女珠姫(天徳院)を迎えたことをはじめとし、4代光高が3代將軍家光の養女阿智子(清泰院)、5代綱紀が保科正之の二女摩須子(松嶺院)、6代吉徳が5代將軍綱吉の養女松子(光現院)を迎えました。

溶姫は文政6年(1823)4月に11才で2才年上の斉泰と婚約し、文政10年(1827)11月27日には、溶姫が江戸城から本郷の加賀藩邸へ移る「引移り婚

礼」が執り行われました。この時、溶姫を迎えるべく建てられた御殿の正門が、東京大学本郷キャンパスに残る「赤門」(重要文化財)です。

今回展示する婚礼調度は、「引移り婚礼」の際に溶姫が持参したものです。前田育徳会では「葵紋蒔絵調度品Ⅰ・Ⅱ」として保管しています。よく見るとⅠとⅡでは葵紋の形や蔓の巻き方などに違いが見られ、作成時期や作成者が異なっていたと考えられます。本展では、Ⅰに属する厨子棚や黒棚のほか、Ⅱに属する渡し金箱、耳盥みみだらなども展示します。溶姫の生活の様子に思いをはせるとともに、ぜひ装飾の違いにも注目していただけますと幸いです。



《葵紋蒔絵調度品 黒棚》溶姫所用

第7展示室

一陽会石川支部 WEB展覧会

12月13日(水)～17日(日)会期中無休

◆入場無料

◆連絡先 一陽会石川支部副支部長 竹田明男
電話 076-2248-5989

今秋、六本木の国立新美術館で開催されました第69回一陽展(10月4日～16日)に出品しました石川県在住・出身作家の絵画・彫刻作品あわせて約25点を展示し、若い世代にも気軽に作品に親しんでもらえるよう二次元コードを読み取れば、支部のホームページや作品の解説等もスマホで見られます。

一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉勵し、新時代の美術を推薦とする。先鋭なる未完成こそ推薦し、前人未到新分野の確立に努力するものである」この精神をふまえ、日々研鑽努力してきた渾身作を展示いたします。美術愛好家の方々にご高覧いただいて、ご教示いただければ幸いに存じます。

第7・8・9展示室

北國新聞創刊130年記念 学校法人金沢学院大学 学園芸術祭

11月30日(木)～12月4日(月)会期中無休

◆入場無料

◆連絡先 金沢学院大学入試広報部
電話 076-229-8833

北國新聞創刊130年を記念し、金沢学院大学、短期大学、附属高校の芸術分野にかかわる学生、生徒とその卒業生、及び教職員らの作品を一堂に展示し、本学園の芸術教育の成果と美術の魅力を発信します。

本学園では2000(平成12)年4月、大学に美術文化学部(現・芸術学部)、翌1年4月、附属高校に美術文化コース(現・芸術デザインコース)をそれぞれ創設して以来、高大連携で芸術教育を本格化させています。

今回の学園芸術祭では、現代美術展での学生、生徒の入選、入賞作品、地域連携活動の一環として取り組んだ各種制作物をはじめ、文化勲章受章者、文化功勞者、日本芸術院会員、人間国宝が名を連ねる歴代教授陣の作品も展示します。

第8・9展示室

第32回

石川独立DO展

12月16日(土)～19日(火)会期中無休

◆入場無料

◆連絡先 堀一浩
電話 090-4326-5849

石川独立は、昭和54年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォークビズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、東京国立新美術館で毎年開催されており、今年で90回を数えます。自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。

16日には批評会も行い、作家それぞれの作品に対する思いが理解できる機会ともなっています一般の方からのご質問やご意見を伺うこともできますので、是非ご参加ください。

◆出品予定作家
伊藤裕貴・岩永純・浦野聖菜・大部雅子・桑野幾子・桜井節子・進地美穂・田井淳・南雲まき・舟橋清・堀一浩・堀田正人・松村裕之・安野弘美

第7・8・9展示室

第34回

志賀町を描く美術展金沢展

12月7日(木)～10日(日)会期中無休

◆入場無料

◆連絡先 志賀町生涯学習課
羽咋郡志賀町末吉千古1-1
電話 0767-32-9350

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて生まれ てきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いて いただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPR する目的で開催しております。例年、招待作品から一般 作品まで約111点の洋画・日本画・水墨画・水彩画 などの作品を富来展と金沢展の2会場で展示して おります。

よみがえった文化財—保存活用を支える修復技術—

令和6年1月4日(木)～2月12日(月・休) 会期中無休

加賀藩主・前田家は文化財保護に高い意識をもって先駆的に取り組んでおり、その精神は今日まで石川県に継承されています。石川県立美術館も開館以来、館内のスペースを利用して文化財の修復に取り組んできましたが、平成9年(1997)旧石川県出羽町庁舎に、石川県立美術館の付属施設として、石川県文化財保存修復工房が開設されました。建物の老朽化に伴い、平成28年(2016)には美術館の広坂別館に隣接してリニューアルオープンし、主として地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ねています。修復工房では、(一財)石川県文化財保存修復協会の修復技術者が、国指定文化財を始めとする多数の作品の修復を手がけ、全国に先駆けてその作業の様子を一般に公開し、その活動には国内外から高い関心が寄せられています。

本展は、文化財修復を改めて地域文化の本質的な独自性と位置付け、藩政期から修復工房開設に至る石川の文化風土を再認識しつつ、文化財の保存・修復の成果を技術面に主眼を置いて紹介するとともに、地域間の連携など、これからの文化財活用を展望するものです。

◆主な展示予定文化財

- ・ 国宝《土佐日記》藤原定家筆 附《屏風蒔絵箱》前田育徳会蔵
- ・ 重要文化財《吾妻鏡》前田育徳会蔵
- ・ 重要文化財《石黒信由関係資料》高樹会蔵
- ・ 石川県指定文化財《陳希夷睡図》長谷川信春(等伯)筆
- ・ 石川県七尾美術館蔵
- ・ 石川県指定文化財《阿弥陀如来立像(白山下山仏)》白山市尾添区蔵

学芸室の人々

中澤 葉見子(普及課学芸主任)

小学生の時に美術全集で見たブロンズイノー《愛の寓意》(ナショナル・ギャラリー、ロンドン)の謎めいた表現に夢中になりました。あなたの美術史はどこから? 私はマニエリスムから。ませた子どもです。このあとギリシャ神話、北欧神話、古代中国、幕末などを履修する界隈の女子になります。

紆余曲折を経て、いまは主に江戸時代の絵画を研究していますが、いつか家族といっしょに、この美しい絵を見に行きたいなと思っています。



アーネヨロ・ブロンズイノー《愛の寓意》
ナショナル・ギャラリー(ロンドン)蔵

奈良 竜一(学芸第二課学芸主任)

国内外の美術館や寺院などには心動かされる美しいもの、すごいものが溢れています。建築にも素晴らしいものがたくさんありますね。例えば、古代中国でつくられた青銅器は祭祀で使われたのですが、迫力のある造形をしていて、初めて観たときは感動しました。さて、そんなわたしではありますが、一番心動かされるものは、大自然です。離島は今でも大好きですが、山の雰囲気には惹かれています。この夏に行った、富山県にある称名滝は絶景でした。滝の音と水の流れる風景、空間がとても素敵でした。…が、この夏は猛暑の影響か、水の流れが少なく、普段よりもおとなしく控えめな(?)光景だったようです。



デジタルミュージアム紹介

今年度より、美術館の館内に、最新技術を駆使して美術工芸作品に親しむことのできる「デジタルミュージアム」を設置しています。もう体験されましたでしょうか。

大型モニター2台で、それぞれ異なるコンテンツを楽しむことができますので、簡単にご紹介いたします。

1. 美術とあそぶ

ドラを鳴らしたり、大皿で金箔を集めたり、モニターに映る美術作品であそぶことができます。お馴染みの作品に、いつもとは違う発見があるかも。小学生以上のお子さまにもおすすめです。1階ロビーのエスカレーター横に設置してありますので、どなたでも自由に体験いただけます。

【作品紹介】

- ・三代魚住為楽《砂張銅鑼》
- ・吉田美統《釉裏金彩大山蓮花文鉢》
- ・《和蘭陀白雁香合》 オランダ・デルフト窯

2. 美術をまなぶ

当館の所蔵作品の4K映像を解説付きで鑑賞することができます。また重要無形文化財保持者（人間国宝）へのインタビューや、作品の制作風景の動画も視聴できます。2階コレクション展示エリア内に設置しており、視聴にはコレクション展の入場料が必要です。



「美術とあそぶ」
モニターの前で、手を動かしてみてください。身振りに従って画面内の作品が変化します。

【4K映像で鑑賞できる作品】

- ・重要文化財《色絵梅花図平水指》野々村仁清など計7作品

【人間国宝へのインタビュー映像】

- ・重要無形文化財「釉裏金彩」保持者 吉田美統氏
- ・重要無形文化財「木工」保持者 川北良造氏
- ・重要無形文化財「沈金」保持者 山岸一男氏

12月の行事予定

■土曜講座

13時30分～15時 美術館講義室 無料

9日（土）

「初代徳田八十吉の陶芸」

学芸主任 奈良 竜一



「美術をまなぶ」
モニターに指を近づけると、映像が選択できます。お好きなものを選んで視聴いただけます。

よみがえった文化財—保存活用を支える修復技術—

企画展Topics

会期：令和6年1月4日(木)～2月12日(月・休)



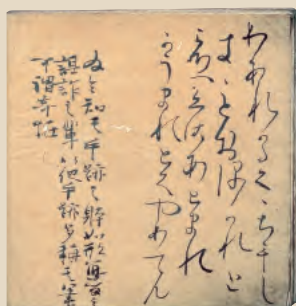
重要文化財《西湖図》秋月等観



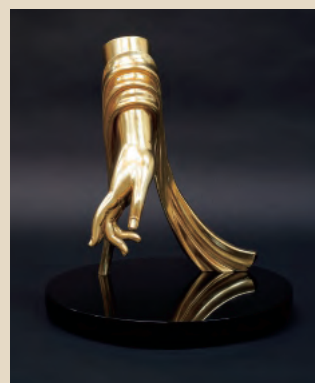
重要文化財《西湖図》秋月等観 修復前



重要文化財《加越能三州部分略絵図》
石黒信由 高樹会蔵



国宝《土佐日記》藤原定家筆
前田育徳会蔵



《聖林寺十一面観世音菩薩立像
復元模型(右手)》奈良県蔵



《刀 銘加州金澤住藤原清光作》清光

次の展覧会

令和6年1月4日(木)
～2月12日(月・休)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
名物裂の精華		琳派と五十嵐派
第5展示室	第3・4展示室	第6展示室
特集 毎田仁郎 【工芸】	特別陳列 没後30年 田中太郎一誠をつくす彫刻— 【近現代絵画・彫刻】	近代からの書の風景 【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
12月4日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

12月の休館日は
25日(月)～31日(日)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRしませんか？

広報紙広告ならではの
メリット

- 地域に根ざした情報発信
- 石川県での知名度向上
- 自治体発行の信頼度の高い広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！
092-716-1401

株式会社 ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保

※株式会社ホームページの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に分社化しております。

石川県立美術館だより
第482号(毎月発行)
2023年12月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。